

おお大勝利

平成 30 年度山東サッカー部報第 6 号 (6 月 5 日)

サッカー部保護者の皆様、OB・OGの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

県総体 羽黒に粘るも届かず

5 月 26 日 (土) から酒田市 (飽海地区) を主会場に、県総体がいよいよ始まりました。26 日午前が開会式・監督主将会議が酒田市武道館で開かれる。私は役職に就いている関係から運営側で出席していますが、一応参加校の監督というポジションでもある。選手らは午後からの試合に備え、ゆっくり山形を出発しましたが、開会式は 10 時開始ということもあり、主将役の選手とともに早朝山形を出発。**今年の「主将役」は、3 年バビーまたはバサシことババ**。本当の主将ではありませんが、**主将のフツシ**は午後からの試合の先発でもあるので、市内在住の 3 年生のなかからチョイス。ババと、車内で女子生徒の話など四方山話に花を咲かせながら、酒田に向かう。

山東の一回戦は南陽高校。**以前山南の監督をされており現在娘さんが山東に在籍している S 藤先生**がいらっしゃる。南陽高校というと、数年前まで、とつても高いバックラインを敷いて、オフサイドトラップを多用していたが¹、昨年、選手権一回戦で米沢興譲館ー南陽戦を観た時²は、普通の印象。逆にバックより、オフェンスが元気だった印象の方が強い。試合をしながら、相手の特徴・やり方を感じ取り、対応していかなければならない。

遠方の酒田ではありましたが、**清野総監督、工藤先輩、後藤報道局長**のいつものお三方、それに加え、**岸後援会会長**もいらっしゃり、四方そろい踏み。OBOG も、**インテルまたはタクチャンことタクミ** (山東 61 回卒)、**カツミ** (66 回卒)、**ユート、マツキ** (67 回卒)、**ベジ、ヒロヒサ** (68 回卒) らが応援に来てくれた。もちろん多くの保護者も、酒田までいらっしゃった。

試合が始まると、「試合の入りから勢いもって行こう」との打ち合わせに反して、横パスを奪われるくだらないプレー³を皮切りに、深くまで攻められ、最初っから流れが悪い。根本的には、流れを悪くするプレーを個々にしないということが出来ないという問題がある、または、その悪い流れを落ち着いてはねのける力がないという問題があり、いったん悪くすると体勢を立て直すのにしばらくかかる。CK を安易に与え、ため息をついていると、ニアサイドに飛んだ CK のボールをゾーンで配置されたニアの選手⁴がヘディングし切れず、ゴール前に逃すと、ヘディングするものと思って安心していたがいきなりボールが飛んできて焦った中の選手のクリアが逆に撥ね、ボールは自陣ゴールに吸い込まれる。**前半早々のオウ**

¹ 高いバックラインということは、バック (DF) が上がる (味方ゴールから遠ざかる) 布陣を敷くということ。相手をオフサイドポジションに置きやすくなる (取り残しやすくなる) ため、その意図がなくても (罠トラップに相手を落としたいれようと駆け引きしなくとも)、オフサイドの反則を取りやすくなる。

² 選手権二回戦の相手が山東だったので、偵察をかねて選評の仕事をしました。

³ 縦パスのミスは仕方がないが、横パス・バックパスは奪われてはならない、というのが、サッカーの基本中の基本の考え方です。攻撃のチャレンジを促す意味でも、守備における安全性をはかる意味でも。

⁴ ゾーンで配置とは、相手選手をマークせず、特定の場所 (の守備) を任されているという意味。

ンゴール。ため息しか出ない。その後、アバウトな攻撃ながら少し盛り返し、早い攻撃から相手 CB 裏に抜け出した **2年FW ニコラスことシオン**が同点ゴールを決め、少しチームを安心させる。前半終了間際には、そこそこ良い位置で FK を得ると、キッカーは **3年SH ヤマモト**。高橋コーチは「入る気がしない」とつぶやくも、「いや追い風だから分からないよ」と返して正解だった。**ヤマモトが蹴ったボールは、高い軌道から急に落ち、バー下に当たりそのままゴールに入るファインシュート⁵**。ヤマモト、俺は信じていたよ！ すぐさま前半終了で、前半を 2-1 で折り返す。

上で記していませんが、前半は相手ボランチにセカンドボールを拾われ、それを俊足のアウトサイドの選手に展開されて勝負され、ピンチの連続だった。守備ではボランチも CB も積極的なプレーが見られず、相手に「やらせすぎ」ていた。こんな展開で 2-1 はラッキー以外の何物でもない。しかし、後半は、相手の勢いが落ちたというべきか、山東のボール保持が長く、相手のリズムに持ち込ませなかったというべきか、一転して落ち着いて観られる試合となる。特に **DF 陣が積極的な球際**を見せ、相手に自由を与えないディフェンスができた。後半は **2年FW オサのドリブル突破⁶からニコラスがヘディングのごっつあんシュートで決め、結局 3-1 で終了**。後半は試合展開が落ち着いたのもあり、**1年のナカノ**や**2年ダイキ**、**3年のミヤガワことササキ**、**ババ**を投入することができた。

そして、この話にも触れずにはいられない。**ようやくピッチ内の存在感がピッチ外のそれに追いついてきた 3年FW タカヒラ**、地区総体で右足を負傷したので、次の羽黒戦に備え、この試合は出場させないつもりでいた。しかし、3-1 の状況で守備も安定し、勝ちが見えてきたとき、羽黒戦のために少しでも出場しておきたいと思ったか、タカヒラが「この展開なら、最後 10 分だけ出場させてください」と申し出てきた。最初「ダメ」と言ったものの、調整不足を心配するタカヒラの気持ちも分かる。ということで、後半 25 分からタカヒラ投入。するとタカヒラ、やはり前線に落ち着きを与え、存在感を見せる。練習でもあまり使わなかった右足（のキック）を流れて使うものだから、「タカヒラ、左足！（右足は打ち合わせどおり羽黒戦にとっておけ）」と声がけもしていた。今となっては、これらすべてを後悔している。直後、タカヒラ、左足でシュートに行ったとき、相手選手がボールにチャレンジしてきた。タカヒラのシュートがボールを捉えるのが早かったものの、遅れて相手選手の足がタカヒラの左足の脛の内側に入り、タカヒラ悶絶⁷。そのままピッチ外に運ばれる。脛の骨はそうそう折れないでしょ、と周りも私も思い、正直骨折までは考えていなかったが、発生状況から考えて、翌日トップフォームで試合に臨めるとは思えずガッカリ。タカヒラの痛みが引かないため、念のために日本海総合病院に行って、折れてないかの確認だけ、しに行くことに。すると、**診断結果は何と骨折！！ 全治 3 ヶ月！！** そりゃタカヒラ、痛いはずです。脛の骨なんて、折れた人、これまで近くにはいなかった。しかも、羽黒戦に取っておいた FW のエースで、何とか他で守りきり、タカヒラで一発入れることを狙う作戦を立て、そういう準備もしてきた。もちろん私もガッカリしましたが、**県総体を最後のトーナメントと考えてきたタカヒラの絶望たるや・・・**。

2 回戦の相手は羽黒。昨年度、**選手権県予選に続き県新人も優勝**。今大会優勝候補筆頭。タカヒラの代わりに、前日も先発した 2 年ニコラスことシオンをワントップに据え、**リト**

⁵ ぜひ軌道の高さを HP 写真でご確認ください。

⁶ オサも、あのドリブルを角度のない位置に持っていくのではなく、自分で打てる場所に持っていき、ゴールを陥れることができれば、本物なのですが。まだまだです。

⁷ 確か、その相手は、そのプレーでイエローカードをもらいました。

リート（退却）しての粘り強く守りきる作戦。 ヤマトを久しぶりにサイドバックにし、ヨーティをアンカー、オサを左サイドハーフにしての1-4-1-4-1のシステム。ワントップなので、相手のCBが開いてビルドアップしたときの守り方に工夫がいる。引いて守る作戦とはいえ、相手に高い位置で（山東ゴール近くで）簡単にサイドチェンジを許すようでは、守りようがない。守りの軍団（ブロック）を作るために、ボランチ、SHと確認しつつ、相手CBに制限をかけたい。

試合が始まると、**相手の正確なパスワークに、やはり焦れずに耐えるだけで精一杯。** 規制がなかなかかからない。さすが羽黒、全国を見据えたチーム作りがうかがえる。対戦相手ながら、一人ひとりのプレーにうなることが多い。ただし、山東、この試合割り切って守る作戦。動かされ、走らされて当然。どこまでこの状態で粘り、羽黒の焦りを誘うことができるか。**山東の一人ひとり、いつも以上に球際戦っているし、走っている。** 一回走って終わり、じゃなく、二度走り⁸もしている。これ自体、当たり前のこととはいえ、**当たり前のことがしっかり出来るようになれば、そこそこレベルは高い。** 時折、**3年ボランチのキクチャン**が良い奪い方から単独のドリブルで失地を回復するものの、良い攻撃にまでは繋げられず。攻め手を欠く中で結構粘れている実感があった矢先、相手のサイド攻撃を止められず、センターリングの中で（ニアサイドで）力強く合わせられ、失点。はやり止められず。しかし、選手には1失点は已む無し、と伝えている。残り時間も何とか粘り、**前半0-1。**

後半は、もう少しボールサイドと逆のSHが相手CBに制限をかけ、自由なサイドチェンジを防ぎたいところ。もし2失点してしまったら、または、後半残り15分の段階で同じスコアだったら、すぐ2トップに切り替え、前線からはめに行き、得点を奪いに行くことを打ち合わせしての後半開始。もちろん、羽黒優勢。試合展開は前半と変わらず。山東が粘り、羽黒が落ち着いて攻める、時折キクチャンのドリブルが目立つ。この展開の中、**前半と逆のサイドを破られた攻撃から決定的な2失点目を喫し、いよいよ敗色濃厚。** 3年GKホタテ、今シーズンにハイボールの安定感が増しとても心強かったが、もし取れなかったとしても、前に出て勝負して欲しかったな～。

さあ2トップにし、もう前から行くしかない。すると、後半の後半、羽黒が相手に合わせる時間となり、山東が攻めるシーンも出てきた。前線では、FWが献身的にチェイシングを繰り返している。**全員から必死さが伝わってくる。正直、ベンチでこんなにも頑張っている選手諸君を初めて観て、感動すら覚えていました。** GK一步も動けないヨーティのボレーシュートは、**無情にもゴール左ポストに嫌われるも、山東の意地が伝わってくる。**「いや～、みんなすごい頑張ってるな～」とつぶやくと、隣の清野総監督が、「そうだな」とつぶやき返す。試合中、清野総監督と話をするのも少ないのですが、**選手のプレー及び結果に厳しい清野総監督が選手の頑張りを認めていっしょる。** 残り10分、まだピッチに立っていなかった**応援団長の3年生GKカイチ、ムードメーカーの3年生DFカサコー**を投入。両者とも、3失点目を食い止める粘り強いプレーが光りました。

結局、試合は**0-2**で届かず。しかし、**結果以上に、選手の頑張りをこんなにも褒め称えたいと思った試合は、これまでの監督経験でもあまりなかった。** 120%の力で走りきり、ぶつかりあってくれた。それでも、やはり羽黒は強かった。もしタカヒラが万全でも、異なる結果をもたらすのは難しかったでしょう。ただ、**こいつなら一発やってくれるかも、という期待感を持って試合ができるかどうかは、大きな異なり**です。そのことは考えないようにしようと思っても、どうしても頭をもたげてしまいます・・・。

⁸ 一回目のアプローチをはがされた後も、すばやく戻ったり、奪い返しに行くこと。

その後、**羽黒は県総体を優勝**しました。**羽黒の皆さん、全国でまずは一勝、よろしくお願いいたしますね。**山形代表は、IHでも選手権でも、このところ、ずっと初戦敗退が続いています。その流れをここで断ち切ってください。

山東の選手は確かに頑張りました。しかし、この試合の頑張りが、もっと他の試合でも出来ていれば、チームとしてもっとレベルアップできたのに、とも思ってしまう。この試合の頑張りを日常の練習から出来ていれば、個々にもっと伸びたのに、とも思ってしまう。選手の頑張りに目を見張った素晴らしい県総体で、「**こんなにも頑張れるんだ**」とうれしくな**った**半面、「**こんなにも頑張れるんだ**」**たら、これまではもったいなかった**」とも思**ってしま**いました。日常から真剣に走り真剣にぶつかり合うように導けなかった指導の不足も感じた、そんな県総体となりました。これからの合言葉は「日常」です。

さて、県リーグ前期まで3年生は引退せず、残って戦います。**後輩に勝ち点を残すためではなく、個々のサッカー選手として高校生活の最高地点を目指すため**です。1、2年生は、3年生とプレーできる喜びを感じながら、プレーを盗み、追い越してもらいたい。

県総体の応援ありがとうございました！選手は今、前期中間考査のためのテスト休みに入っていますが、**今週末、またすぐ県リーグとなります**。引き続き応援よろしくお願いいたします。

6月9日(土) Y2A 山形中央C戦 10:00~@山形中央高校G